森林な人々 第16回

音楽活動を通じて東日本大震災の被災地に「森」を育てる

「鎮魂の森に捧ぐ、祈りの詩(うた)」チャリティコンサート

ソプラノ歌手　雨谷　麻世

プロフィール

雨谷　麻世　（あまがい　まよ）

～魂を揺さぶる究極のクリスタル・ヴォイス！～

東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。川崎市名誉文化大使。

ルネッサンス、バロック、フランス歌曲までも歌いこなす実力派シンガー。ザルツブルク八重奏団、東京都交響楽団、佐渡裕等と共演。平成8年よりチャリティコンサートを始め、平成14年からは環境省の後援で「鎮守の森」と「子ども」をテーマにしたチャリティコンサートを続け、平成26年10月には森林・みどりづくりの功績により林野庁長官より感謝状を授与される。

平成23年度よりオリジナルソング「僕にできること」が小学5年生の音楽教科書に採用。

「第61回全国植樹祭」では天皇陛下の御前で君が代を独唱。

「NHK歌謡チャリティコンサート」「徹子の部屋」「とくダネ！」「NHKラジオ深夜便」等に出演。国際森林年記念コンサートやインドの世界的な経済サミット「Gujarad 2011」で歌声を披露するなど、国内外で活躍する注目のソプラノ歌手。

公式ホームページ　http://www.mayocrystalvoice.com

「一粒のドングリが世界を変える！小さな小さな命だけれど、地球の命を支えてる～」

これは、私のオリジナルソングCD「僕にできること」の中の一曲、「木を植えよう～いのちの森～」の歌い始めの詞です。実は私が作詞しました。今、植樹祭の応援ソングになっています。なんと振り付けも付いているんですよ！（写真下）でも、ソプラノ歌手の私が、なんでドングリの歌を・・とお思いでしょう。

今から25年前、「歌で生きていこう！」と決心した私は、まず初めに「コンサート」を開催し、多くの人々に出会い、応援頂き、無我夢中に走ってきた時にふと、何かご恩返しが出来ないかと思ったんです。それがチャリティコンサートを始めるきっかけでした。

平成8年から始め、「子ども」をテーマに、WFP（国連世界食糧計画）、モンゴルのマンホールチルドレン、カンボジアで小学校をつくる会等へチャリティをしてきました。そして平成14年からは「子どもの未来はふるさと＝地球」と思い立ち、「鎮守の森ルネサンス」というタイトルで「子ども」と「森」をテーマに「環境チャリティコンサート」を始めたんです。

古代から、自然を畏れ敬い、共に生きてきた日本人。「鎮守の森」の精神性は、日本人の大切なDNAです。そんな素晴らしい私達の魂の遺伝子を、再び「蘇らせたい」そんな思いから、「鎮守の森ルネサンス（再生）」というタイトルを付けました。

平成23年からは、東日本大震災の復興支援も行っていますが、震災以降、海外の人々から称賛されている日本人の心の高潔さは、正に日本人の繋いできた素晴らしい「鎮守の森」の遺伝子だと思います。

「木」を植えることで故郷が元気になり、歌が私達の心の「気」を元気にする…私達自身がもっと自分に自信を持ち、元気な心で生きていくこと…そんな思いで続け、環境チャリティは、今年で50回目を迎えます。

最初にお話しした私のオリジナルソング「僕にできること」は、「鎮守の森」の縁で生まれた「森の歌」「命の歌」です。秋田県での全国植樹祭でも歌わせて頂きました。平成23年度からは小学5年生の音楽教科書にも採用され、今も多くの子供たちが歌ってくれています。本当に嬉しいですね！

昨年デビュー25周年を迎え、26年目の今年は再び初心に還る年でした。音楽＝歌＝私には何ができるのか・・音楽はやはり心の栄養、ビタミンです。皆さんに音楽をもっともっと「食べて」いただき、心が元気になってほしい、これからも多くの人にいい歌を届けたい、そうそう、たまには森の中でコンサートをしたいですね～…自然の中にいると、人は皆、心の鎧が取れて、生まれた時の無垢な心になれるんですから。

音楽を、たべよう。
雨谷麻世
クリスマス・チャリティ・ディナーショー
12月22日(火)
於 ANAインターコンチネンタルホテル東京

問合せ　Mayo Crystal Music
Tel.045-866-1892
http://mayocrystalvoice.com/

世界に誇る日本の森林文化を知っていただくために

映画「うみやまあひだ～伊勢神宮の森から響くメッセージ～」

映画プロデューサー　服部　進

映画「うみやまあひだ～伊勢神宮の森から響くメッセージ～」を公開させていただいてから、半年になります。特に平成27年4月の東京都二子玉川での上映は、連日、本当にたくさんの皆様にお越しいただき、1ヶ月のロングラン上映を達成することができました。心から御礼申し上げます。

この映画は、平成25年に執り行われました伊勢神宮の「式年遷宮」をきっかけに、日本の文化のすばらしさ、森のすばらしさを、写真家宮澤正明監督の美しい映像、和楽器とピアノのコラボレーションによる心に響く音楽、そして、北野武氏、隈研吾氏ら、12人の賢人達のインタビューの構成により、お伝えしているドキュメンタリー映画です。「うみやまあひだ」というタイトルは、昔の文献の中に、日本のことを、「うみとやまのあいだの国」といっている記述があるところから命名しました。

おかげさまで、海外の映画祭では、大変高い評価をいただき、世界3大ドキュメンタリー映画祭の一つ、イギリスの「シェフィールド国際映画祭」では、数千本の中から、ファイナルの8本に選出いただきましたし、7月にスペインで開催されました、第4回「マドリッド国際映画祭」では、最優秀外国語ドキュメンタリー作品賞と最優秀プロデューサー賞の2冠を獲得することができました。今までに、7本の映画祭から招待を受けています。（平成27年9月28日現在）。

面白いことに、映画祭など、海外で上映させていただく時と、日本で上映した時には、観客の反応に大きな差があります。上映後に宮澤監督がご挨拶させていただいた後、質問を受けることが多いのですが、日本での上映後は、ぱらぱら手があがる程度です。それに対して、海外では、半分以上の方々が手をあげ、この映画をご覧になった後の反応がすごいのです。

さて、では、なぜこの映画が、海外で評価が高いのでしょうか。海外の方々の質問から推察すると、日本が古くから自然と共に共生し、森や海を尊敬して生きてきたこと、特に、森との関わりに深く興味を持っていることがわかります。

一例をあげると、式年遷宮で御奉納するご神木は、200年以上前から、そのときのために、植えられ、育てられます。植えた方の3、4世代後にはじめて、その苦労が報われるのです。林業の方々にとっては、ごく当たり前のことかもしれないのですが、外国では、それが理解できないようなのです。

日本の林業は、それくらい、神秘的で、海外の皆様から尊敬の目でみられているのです。また、伊勢神宮では、1400年間毎朝夕、お水をくんで、手で火をお越し、お米を焚き、神様に御奉納しています。その永続性が、驚きとなるようなのです。

ただ、日本人でも知らないことがほとんどですので、手があがらないだけで、後でうかがってみると、日本人の方々も、同じように驚かれ、日本の文化の深さに、感銘をうけると同時に、誇りをもたれています。

この映画で目指したのは、この日本の世界に誇る森と海の文化を、世界の方々だけでなく、むしろ、日本の方々にもう一回知っていただくことです。日本は、伊勢神宮に代表される、本当にすばらしい文化を、長年守ってきています。それは、世界的な潮流である「サステイナブル」な文化を、はるか昔から先取りしてきたことなのです。その中心にあるのは、森です。

この映画をきっかけに、日本の方々の、森への理解が深まっていけばよいなと、そして、森や海に関心をもって、日頃から気にかけてくれるようになったらと、心から思っています。

プロフィール

服部　進（はっとり　すすむ）

平成元年、JTに入社。営業、医薬部外品、清涼飲料水の商品企画、マーケティングなどを担当。その後、スポーツマネージメント、マーケティングリサーチ、インターネットプロモーションの会社を経験。

平成17年10月、大塚製薬に入社。新製品「SOYJOY」の立ち上げ時のブランドマネージメント、宣伝部などを経て、平成19年8月退職。

平成19年9月、ハートツリー株式会社を立ち上げる。

ドキュメンタリー映画「うみやまあひだ」をプロデュース。

今後の上映予定等の詳細は、
公式ホームページ　http://umiyamaaida.jp/
公式Facebook　https://www.facebook.com/umiyamaaida